

京都大学大学院工学研究科
原子核工学専攻 教授 募集要項

令和 7 年 9 月 16 日

職種	教授
募集人員	1 名
勤務場所	京都大学大学院工学研究科原子核工学専攻 (住所：京都府京都市西京区京都大学桂) 大学が在宅勤務を許可又は命じた場合は自宅等
職務内容	京都大学の業務（教育・研究・運営） 【専門分野】 原子核工学を軸とし、量子物理、放射線科学、医学応用、原子力・核融合エネルギーに関連する新たな分野（※別紙参照）の開拓により、原子核工学の更なる発展を担う。 【担当科目】 学部教育を含む原子核工学専攻の幅広い授業科目について担当する。
資格等	博士の学位を有する方。 優れた業績を有し、熱意をもって教育・研究に取り組める方。
任期	なし
雇用期間 (着任時期)	令和 8 年 4 月 1 日以後できるだけ早い時期
試用期間	あり（6 か月：本学教職員就業規則に基づく）
勤務形態	専門業務型裁量労働制(1 日 7 時間 45 分相当) 専門業務型裁量労働制を適用しない場合は、週 5 日 8:30～17:15 勤務（休憩 12:00～13:00） 超過勤務を命じる場合あり 休日：土日曜、祝日、年末年始、創立記念日
給与等	本学支給基準に基づき支給
手当	本学支給基準に基づき支給
社会保険	文部科学省共済組合、厚生年金、雇用保険および労災保険に加入

応募方法	提出書類 ①履歴書(写真貼付。学歴、職歴、資格を記載。連絡先、E-mail を明記) ※出産、育児等で教育・研究等を中断していた期間がある場合は記載してください。審査の際に考慮します（記載は任意です）。 ②研究業績リスト(h-index、査読付き原著論文、国際会議論文、著書、解説、特許等に区分) ③主要論文 5 編および各論文に対する解説 ④教育に関する抱負 ⑤研究に関する実績(主要論文に対応させて記述)と今後の抱負 ⑥その他参考となる実績リスト(外部資金、受賞、学会活動、社会活動等) ⑦所見を伺える方 1～2 名の氏名と連絡先 書類については印刷版 1 部および電子版(PDF ファイルを USB メモリなどにコピー)を提出のこと。封筒に「応募書類 在中（教授）」と朱書し、簡易書留で下記宛先に送付のこと。 （宛先）〒615-8540 京都市西京区京都大学桂 C3 棟 京都大学大学院工学研究科原子核工学専攻 檜木達也
応募締切	令和 7 年 11 月 10 日(月) 必着
選考方法	・提出書類に基づいて選考します。 ・選考の過程で面接を行うことがあります。詳細は別途連絡します。 ・面接の際の旅費・滞在費等は応募者の自己負担とします。
その他	・提出頂いた書類は、採用審査にのみ使用します。正当な理由なく第三者への開示、譲渡および貸与することは一切ありません。応募書類および USB メモリなどはお返ししませんので予めご了承ください。 ・出産・育児等で教育・研究等を中断していた期間中の業績については、休業期間の前後と等しい業績を上げたものとみなします。 ・所属する教員組織は物理工学系となります。教育・研究上は大学院工学研究科原子核工学専攻の所属となります。

	・当専攻の概要については、 https://www.ne.t.kyoto-u.ac.jp/ja を参照してください。 ・京都大学は男女共同参画を推進しています。多数の女性研究者の積極的な応募を期待します。 ・京都大学では、すべてのキャンパスにおいて屋内での喫煙を禁止し、屋外では喫煙場所に指定された場所を除き、喫煙を禁止するなど、受動喫煙の防止を図っています。
問合せ先	工学研究科原子核工学専攻 檜木 達也 Tel： 075-383-3911 E-mail： hinoki.tatsuya.3n*kyoto-u.ac.jp （「*」を「@」に変えてください）

原子核工学を軸とする量子物理、放射線科学、医学応用、原子力・核融合エネルギーに関連する新たな分野

放射線科学に基づく量子技術分野

放射線科学を専門の基盤としながら、量子物理に基づく新たなデバイスの開発やその高度化などの研究を展開する。これにより、放射線の応用分野を押し広げ、放射線科学と量子物理学の両方の観点から専攻の発展に貢献する。

原子力・核融合エネルギーシステム分野

原子力または核融合によるエネルギーの生成、安全・効率的に利用するシステムの研究・開発を行う。炉物理、熱流動、材料開発、核燃料、安全設計、プラズマ物理、放射線利用など幅広い研究分野と協力し先進的なエネルギーシステムの構築を目指す。

量子科学に基づく核医学分野

量子ドットおよび量子センシングを基盤とした次世代セラノスティクス設計を目指し、核医学診断（量子ドットを用いた分子イメージングや検出装置）と、RI を利活用したピンポイント内部照射による放射線治療を融合させた新たな核医学領域を展開する。

放射線科学と量子技術・生命科学との融合分野

放射線科学を基盤に、量子技術や生命科学の発展に新しい視点から取り組み、学際的な研究と次世代人材の育成を推進する。具体的には、量子デバイスの作製技術の開発や、放射線に対する生体反応の量子論的な解明による医学への応用を目指す。